

社
SHA

楽
RAKU

神奈川県立川崎図書館 が所蔵する
全国有数の〈社史コレクション〉を
さらに活用していただくため、
社史の使い方や、社史の楽しさ、
社史情報などをお届けしていきます。

Vol.27

2014/03

東日本大震災から丸3年が過ぎようとしています。その後の期間を対象とした多くの年史では、東日本大震災とその影響、震災からの復興について取り上げています。今回は震災後に刊行された社史・団体史で、震災と復興がどのように記載されているのかを紹介します。

『社団法人プレハブ建築協会50年史』（2013年刊）の「東日本大震災への対応」の項目にある「応急仮設住宅の建設」では住宅の特徴、寒さ対策工事の内容など図表を交えて説明しています。また、詳細な「プレキャスト建築の調査結果の統計的分析」の報告も収録しています。

企業はいかに対応したか。

日鐵住金建材株式会社の『限界を超えて』（2012年刊）では社史編纂を進めている最中に東日本大震災が起こり、同社の仙台製造所は甚大な津波被害を受けます。その時の経験を社内外に伝えるため『東日本大震災 仙台製造所被災状況と復興』を別冊として作成しました。仙台製造所が被災し、復旧していく道のりを時系列にまとめています。巻末には震災直後と同年8月下旬の所内各所の写真を並べて掲載しています。

防振ゴム、防音、免震、制振などを事業分野とするヤクモ株式会社『環境と共に50年』（2013年刊）の東日本大震災に関する項目では、これまで手掛けてきた施設等の被害状況の確認したことが書かれています。巻末には「震災に学び、未来へ生かす」と題した社員アンケートを掲載し「地下倉庫において、閉じ込められ、心細かった」や「計測中だったので、地震の揺れも計測した」といった社員のコメント、本社・工場・営業所での様子、震災当日の帰宅にかかった時間と交通手段を記録したグラフなどが出ています。

（裏面に続く）

社史にみる 東日本大震災

(表面から続く)

今回は3冊だけの例示でしたが、東日本大震災という視点で社史を見ていくと、企業の被災状況と対応、復興支援の記録、震災を契機に見直した事業体制など、さまざまな事柄が記載されていました。震災に直面した社員の声の掲載も多かったです。

企業がどのように困難に立ち向かったかを共有することは、今後の教訓や危機管理に結び付くように感じました。社史だから記載されていること、社史でしかわからないこともたくさんあるはずですよ。

東日本大震災について記載している社史は、まだ近刊のみですが、これから刊行される社史には大小の記載がされていくでしょう。

東日本大震災だけでなく、地震、台風、水害、豪雪：などで行われた企業の危機対応を社史で調べていくと、未来につながるものが見えてくるように思えます。そして、こうした社史を保存し、後世に伝えていくことも、社史室の重要な役割だと感じさせられました。

(科学情報課・小池+高田)

素敵な社史があったので紹介します。外資系コンサルティング会社のアクセント株式会社(アセプト)が2013年に刊行した『KISEKI 1962-2012』で、社史そのものが福島の復興支援活動につながっているのです!

巻末の「Project KISEKI～「福島」へのこだわり」によると、この社史の扉(標題紙)には、福島県二本松市の手漉き和紙「上川崎紙」を使用しています。「みちのく紙」とも呼ばれ、紫式部や清少納言も愛用した和紙だといえます。また、本文を含め社史の印刷は、あえて福島県福島市の印刷業者に依頼しました。和紙への印刷は機械ではできず手作業で行ったそうです。

ほかにも各章の冒頭に年表があってわかりやすい。本文のページの欄外に社員の声を散りばめている。写真やコラムを多用して読みたくなるレイアウト。1992年と2012年を比較できる社員のアンケートや、社員が投稿した川柳。夢や未来を書き込める巻末のノート(ノートのページ)など、たくさん(たくさん)の特色がある社史です。

ぜひご覧いただきたい一冊です。またあらためて紹介するかも…。

● 社史ができるまで講演会 ●

1月24日に開催した講演会「『コミーは物語をつくる会社です。』ができるまで」は、創業者で現社長の小宮山栄氏から多岐にわたるお話をうかがうことができました。アンケートでは「企業のユニークさが良くわかって、とてもいいセミナーでした」「社長さんのお話だけでなく、編集に係わった方や社員さん方のお話も聞けたのが面白かったです」「物語をつくり続けることで社内コミュニケーションも良くなっていると思います。失敗の物語を書いたことも素晴しかったです」などの声も。次回はいよいよ10回目。速報ですが、5月14日(水)『富士ゼロックス50年のあゆみ』ができるまでを開催します。詳細やお申込みは当館ホームページなどをご覧ください。

●お問い合わせ先 神奈川県立川崎図書館 科学情報課

210-0011 川崎市川崎区富士見2-1-4

電話：044-233-4537 FAX：044-210-1146

<http://www.klnet.pref.kanagawa.jp/kawasaki/index.html>